

下野市立南河内第二中学校

1 学校課題

「主体的なコミュニケーション活動を通して、他者と協働して自己の学びを深める生徒の育成」
～聞いて考える力の育成（南河内第二中学校区・小中一貫教育共通テーマ）～

2 研究計画

（１）主題設定の理由

昨年度は、「主体的なコミュニケーション活動を通して、深い学びを実現する生徒の育成」を学校課題とし、生徒が粘り強く課題に取り組む姿や自己調整を行う姿が見取れる主体的なコミュニケーション活動を軸とした授業作りや、目的を明確にしたICTの活用法の工夫を行い、一定の成果を上げることができた。さらに発展的な研究とするために、今年度は、主体的なコミュニケーション活動において、【他者と協働】する過程の中で自己の学びを深めることができる生徒の育成を、研究主題に設定した。

（２）研究の仮説

各教科において、より必然性のある目的・場面・状況の設定を工夫し、協働的な課題解決学習を授業の中心に取り入れていく。その主体的なコミュニケーション活動の中で、他者の意見を聞いた上で考察する力を育成することで、自分の考えをより深い学びにすることができると考える。

3 研究内容

（１）具体的方策

①一人一公開授業

一人一公開授業を異年齢・異教科の３班編制で実施した。授業者は、学校課題を意識した授業のねらいや参観の視点等を記入した指導の概要を作成し、配付した。授業後は、授業感想用紙に、有効であった教師の手立てや授業改善のポイントを授業者にフィードバックした。

②英語科 Small Talk の実践

ALT との授業では、帯活動として Small Talk を取り入れ、単元のテーマや文法事項を用いて、やり取りを行った。与えられた対話文だけでなく、相手の発話をよく聞いて、5W1H を用いた質問をしたり、自分の意見を伝えたりすることを意識付けた。

③ICT の効果的な活用

各教科において、より主体的なコミュニケーション活動を充実させるため、目的を明確にし、より高い学習効果をねらったタブレットの活用方法を工夫した。

（２）研究授業を通した主題への取組

①一人一公開授業及び研究授業

月日	学年	教科	単元名	課題追究のための手立て等
7/1	2 年	理科	化学変化と原子・分子	・ ICT 端末で実験の様子を撮影し、グループでの考察に活用した。
7/4	1 年	家庭	バランスの良い献立作り	・ 栄養士や図書支援員とのコラボ授業にしたことで、より専門的な知識を得られた。
7/10	3 年	英語	絶滅危惧種の要因と自分たちが できること	・ 授業の明確なゴールを設定し、話し合いに関するルーブリックを活用した。
7/17	3 年	社会	人権と共生社会	・ グループでジャンプ課題に取り組むことで、話し合いを活性化させた。

9/9	3 年	保体	球技ネット型（バレーボール）	・チーム別に、自分たちの課題解決に向けて有効な練習方法を考えて実践した。
9/13	3 年	美術	気持ち、動き、時間を表す『漫画の魅力』	・レーダーチャートを用いて作品の分析を見える化し、話し合いを活性化させた。
10/7	1 年	国語	詩の魅力を伝えよう	・班のプレゼン資料を共有することで、全員の意見を反映させプレゼン資料を作成した。
10/28	3 年	国語	パブリックスピーキング	・発表のポイントを提示したことで、聞く側の意識や態度を向上させた。
10/31	1 年	技術	ものづくりで課題解決しよう	・ICT 端末を活用し、木材の試し切りを動画撮影し、話し合いを円滑にさせた。
11/7	1 年	社会	ヨーロッパ州	・ICT 端末で様々な資料を提示し、知識と情報を活用した課題解決学習となった。
11/26	1 年	英語	“All about me” Poster	・見通しを持たせ、ルーブリックを活用することで、より主体的な言語活動となった。
11/29	2 年	数学	平行と合同	・ICT 端末を活用し、個々の考えを全体に共有したことで、多角的な考え方を得た。
12/3	5 組	自立活動	みんなが楽しいと思えるクリスマス会にしよう	・お互いの発表を評価するためのワークシートの活用で、発表を聞く意欲や態度を向上した。
12/6	1 年	理科	光による現象(S&U コラボ事業) 	・実験の方法から考察まで、教師の指示ではなく、生徒が主体的に活動するために、発問を工夫した。 ・ICT 端末とホワイトボードの両方を活用し、教具を場面により使い分け、学習効果を高めていた。
12/17	2 年	保体	健康な生活と持病の予防②	・ICT 端末を活用し学習内容をまとめ、生徒の興味・関心を引き出した。
12/20	3 年	音楽	帰れソレントへ（要請訪問） 	・3 人の模範音源を Google Classroom に共有したり、課題解決の手助けを示したり、ICT 端末を積極的に活用した。 ・グループでの意見交換では、音楽の得意な生徒が他の生徒によく教えており、協働しながら理解を深めていた。
1/9	4 組	数学	確率の求め方	・自作のいびつなサイコロを準備することで、生徒の興味関心を引き出した。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ①各教科において、必然性のある話し合いの場面を設定し、協働的な課題解決学習を授業の中心に取り入れていた。S & U コラボ事業や一人一公開授業では、コミュニケーション活動を通して【他者と協働】する過程の中で、学びが変容した生徒の姿を教職員が共有することができた。
- ②英語の Small Talk の帯活動により相手の話す内容を踏まえて返答することが定着し、コミュニケーション DAY のプレゼンテーション発表も昨年度より上達が見られ、成果を上げた。
- ③ICT 端末の活用は、各教科の特性に合わせて工夫して行った。活用頻度が多くなり、教職員と生徒共にタブレット操作に慣れたことで、授業の展開がかなりスムーズになってきている。

(2) 研究の課題

- ①他者の意見を聞いて考える力を育成するために、自然に『疑問』や『対話』が生まれる発問を工夫し、ジグソー学習のような協働する必然性のある学習課題を研究・開発していきたい。
- ②授業に関するアンケートによると「振り返り」に関する評価が高くない。授業で深めた学びを次の学習課題や作品制作に生かすため、個々の振り返りを活用し学びの連続性を意識させたい。